

仙台城下の道と町

仙台市博物館 学芸企画室 黒田 風花

第7回

町割り基準になった道

仙台城下を通る数多くの道の中で、最も広い道は奥州街道です。奥州街道は仙台藩領内を縦断して青森から江戸まで通じる道で、仙台藩主の参勤交代や幕府の巡見使の通行などにも使われる幹線道でした。戦国時代の幹線道は、江戸時代の城下の東側を通っていましたが、初代藩主伊達政宗が城下を建設する際に整備したため、奥州街道は城下の中心を通っています。

また、奥州街道とともに城下で重要な道が大町通です。江戸時代初期にはじまる城下の町割りは、仙台城と城下を結ぶ大町通と奥州街道が交差する芭蕉の辻を基点として行われていきました。

道沿いに並ぶ町人町

奥州街道と大町通の道沿いには町人が住む町が整備されました。このうち、中心となったのが大町です。大町は、伊達政宗とともに米沢（山形県米沢市）、岩出山（大崎市）、仙台へと移ってきた「御譜代町」の一つで、仙台藩領内外の商人と商品が集まる商業の中心地として機能しました。大町通という名も、大町を貫通する

ことに由来しています。

寛永四年（一六二七）にはじまる伊達政宗による若林城の建設にもない、奥州街道はその道筋を変えています。仙台城下がつくられた当初は、宮沢渡戸で広瀬川を渡り、土樋を抜け、田町が城下の南の入り口でした。若林城建設後は、長町付近を徒渡し、河原町が入り口になりました。また、十七世紀後半に長町橋が架けられてからは橋を渡るようになりました。

田町から北には、上染師町・北目町・柳町・南町・国分町・二日町・北鍛冶町が街道沿いに並びます。この八つの町の通りは、大町通に対し、通町通と呼ばれました。

城下の中心・芭蕉の辻

城下の町が整備されると、町人町が並ぶ大通りの交差点である芭蕉の辻は、城下で最もにぎわう場所になりました。また、往来する人々に向けて、幕府や藩の禁令を掲げるための高札場も設けられました。このことから、芭蕉の辻は「札の辻」とも呼ばれました。

江戸時代後期の絵図などには、辻の四隅に瓦葺き二層の楼閣風の建物が描かれています。板葺きの平屋が多い城下で、竜や兎、虎などの飾り瓦を用いた豪華な建

物が建つ芭蕉の辻は、仙台藩の名所のひとつとして錦絵などにも描かれました。

仙台市博物館では、六月

二〇日（日）ま

で、芭蕉の辻を描いた刷り物や、奥州街道沿いの風景を描いた絵図などを展示しています。江戸時代の城下を旅しに、ぜひご来館ください。



図1 仙台領奥州街道絵図（部分） 仙台市博物館蔵
長町橋と木戸が建つ河原町の入り口が描かれる



図2 芭蕉の辻（「奥州仙台名所尽集」より）
仙台市博物館蔵

仙台市博物館開館60周年記念祭

Breathtaking Display Lined with Rich Masterpieces

名品尽し

会期 5月12日(水)～6月20日(日)

おうちで楽しむ展覧会

奥州・仙台おもてなし集団

伊達武将隊と行く!!

はっけん! 仙台市博物館

芭蕉の辻の高札場を紹介する動画もあるよ!

仙台市のYouTube公式チャンネル **せんだいTube** で動画配信中!

臨時休館のお知らせ

6月21日(月)

▽

7月8日(木)

展示替え作業のため、上記の期間臨時休館いたします。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

▶6月の休館日 毎週月曜日、臨時休館(6月21日(月)～7月8日(木)) ▶開館時間 9:00～16:45(入館は 16:15まで)

▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索 ※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

▶博物館ツイッター @sendai_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074